

どんな職業か

陶磁器製品について開発・製造・品質管理を行う技術者である。
陶磁器製品には食器などの日用品からタイル、碍子、置物、衛生陶器（便器、洗面器など）などさまざまな種類がある。

当然それぞれの製品によって作り方も異なり、技術者といっても製品のデザイン、機械、化学、設計など様々な種類の技術者がいる。また、基本的な作業の流れからも原料の調合、成形、乾燥、焼成、検査など様々な工程があり、それぞれの工程で卓越した技術・技能を要する技術者が必要になる。

このように陶磁器技術者は幅広い範囲の知識と経験を必要とすることになる。

近年は自動成形機やロボット、コンピューターなどを使って製品を作ることもあり、昔からの伝統的な技法から近代的な製造方式の知識も必要になっている。

就くには

陶磁器技術者になるには2つの道がある。

一つは大学・大学院や窯業高等学校、職業訓練校などで高度な技能と知識を取得し、その後企業の中で経験を積み陶磁器技術者となる方法である。この方法であれば比較的短い期間で技術者になれるがそれでも5年から10年位の経験は必要である。

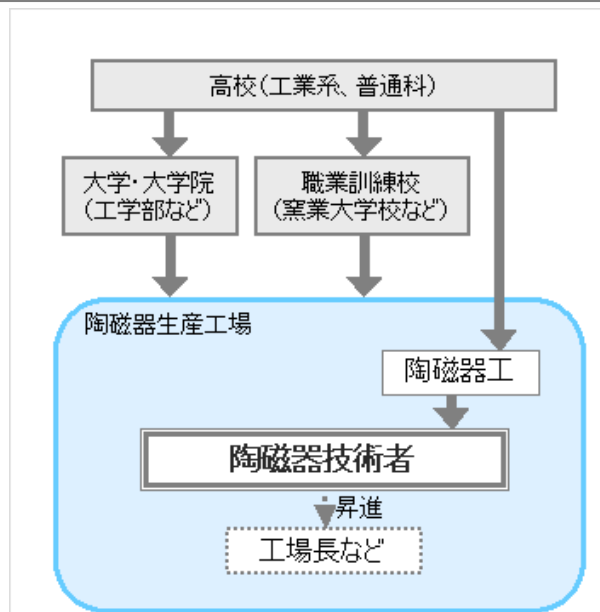
もう一つはとにかく長い間陶磁器工として企業で経験と知識を取得し、その後陶磁器技術者となる方法である。この場合は10年以上の経験が必要になる。

ちなみに陶磁器工とは陶磁器製品を作る作業者のことをいう。陶磁器工になるには特に学歴や資格などは必要ないが、工業系高校などで陶磁器に関する技術やデザインを学んでおいた方が有利である。

関連する資格としては、厚生労働省が実施する技能検定の「陶磁器製造技能士」の資格があり、取得すると技能の証明として評価される。

一般的には陶磁器製造技能士の資格をもつ陶磁器技術者は少なく、ごく限られた分野にとどまるのではなく全体的な製造の管理を行うことが多い。このため企業内での製造、研究、品質管理の責任者になることが多く後に工場長などすべてを管理する立場になることが可能である。

特に必要とされる能力や適性はないが食器、タイル、置物などを製造する陶磁器技術者になるのであればデザインセンスや芸術的な感覚が求められることがある。



労働条件の特徴

陶磁器製品は原料を産出する地域を中心に発達してきたが現在は流通網の発達などにより少しずつ広がりを見せている。しかし、昔から有名な産地である東海地方（愛知県、岐阜県、三重県）や滋賀県、京都府、佐賀県といった地域での生産量が非常に多く全国の都道府県の内上記を含め10府県ぐらいで日本の陶磁器生産量の90%を占める。

事業所規模は中小企業が大部分を占め大企業は全体の1%以下である。

陶磁器工としての就業者は40歳以上の中高年が6割以上を占めており、男女別では男性が6割となっている。しかし、陶磁器技術者となると更に年齢は高くなり、また男女別ではほとんどが男性である。雇用形態としてはほとんどが正社員であるが、一部は陶磁器技術者としての技術が見込まれ退職後に引き続き正社員以外の形で再雇用されることがある。

労働時間は朝から夕方までの通常の勤務形態であることが多い。但し、技術者的な要素に加え管理職としての仕事も含まれることが多いので出張や残業などはある。出張は国内だけにとどまらず海外に出張することもある。

また、近年は海外へ工場を移転する企業もあり陶磁器技術者は海外へ転勤することもある。

参考情報

関連団体 日本陶業連盟
電話:052-935-7231 FAX:052-935-7254

関連資格 陶磁器製造技能士